

社団法人 私立大学情報教育協会  
平成 21 年度第 6 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事メモ(案)

- I. 日時:平成 21 年 12 月 26 日(土)15 時 30 分から 17 時 30 分まで
- II. 場所:私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者:渡辺委員長, 玉木委員, 中島委員, 後藤委員, 佐々木委員, 井上委員, 小池委員、井端事務局長, 森下主幹, 恩田,

#### 配布資料

- 資料 1 第 5 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事
- 資料 2 委員名簿
- 資料 3 本協会による分野別教育「学士力考察」の報告・提言について
- 資料 4 分野別学士力の考察
- 資料 5 情報教育研究委員会及び分科会のイメージ
- 資料 6 分野別教育における情報教育の検討について
- 資料 7 各委員からの提出資料
- 資料 7.1 経営工学の情報教育について(N)
- 資料 7.2 身につけて欲しい IT 活用能力と技術力, 教育方法(K)
- 資料 7.3 経営工学人材の教育・育成方法の工夫(T)
- 資料 7.4 経営工学分野の IT 活用能力(案)メモ(I)
- 資料 7.5 S 大学のシラバス(W)
- 資料 7.6 筧, 山田, 高橋, 渡邊:e ラーニングによる協調型実習の設計法と「生産システム設計」授業への適用
- 資料 8 経営工学の情報教育について(平成 21 年 12 月 26 日現在)
- 資料 9 論文誌「IT 活用教育方法研究」贈呈について
- 参考資料 1 経営学の情報教育について
- 参考資料 2 会計学の情報教育について

#### 検討事項

- 1.本日の記録担当
- 2.経営工学の情報教育について
- 3.今後の検討スケジュールについて
- 4.その他

#### 議事概要

- 1.本日の記録担当を決定
- 2.経営工学の情報教育について～学士力の達成に向けた分野別情報教育について
- 2.1 本日の作業
  - 資料 3～6 の説明の後, 資料 7「各委員からの提出資料」に基づいて検討を進め, 資料 8「経営工学の情報教育について(平成 21 年 12 月 26 日現在)」を作成する. 1 時間で議論, 1 時間で整理・作成する.

## 2.2 事務局長からの経過説明

事務局長より、資料3～6に基づいて、分野別教育「学士力考察」の提言に関する経過説明と、分野別教育における情報教育の検討の方向性について説明があった。

## 2.3 各委員の提出資料に対する検討

### (1) 経営工学の情報教育について(N)

A)参考資料1を参考にして、経営工学の事情に合わせた。

B)より専門的なソフトウェアも使えるようになることを意識した。

コメント a)経営学に寄り過ぎ

コメント b)到達目標Ⅰ:元の到達目標3, 4, 到達目標Ⅱ:元の到達目標1, 2に対応している?

### (2) 身につけて欲しいIT活用能力と技術力, 教育方法(K)

コメント a)リテラシは当然である。もっと理想のレベルについて検討すべきである。

### (3) 経営工学人材の教育・育成方法の工夫(T)

A)提出した資料の内容が、今回の検討の趣旨から外れている、と言う理由で、検討から除外する申し出が作成者本人からあった

### (4) 経営工学分野のIT活用能力(案)メモ(I)

A)経営工学に特化した、達成目標の表現を検討し、「何(が)できる」に統一した。

コメント a)関連科目例は、科目とキーワードが混在している。

コメント b)関係性としての技術(?)に注目すべきでは?

### (5) S大学のシラバス(W)およびeラーニングによる協調型実習

A)既に関講科目として準備されているものを紹介する。

B)プログラミングの講義・実験は、それぞれ3段階に分けている。

C)最終的には自分で行う問題解決に利用できる、

D)情報(社会)倫理教育も行う。

E)数理科学実験においては、協調型の演習を含まれている。

F)教育事例については、S委員の過去の報告事例もある。

## 2.4 学士力の到達目標ごとに必要な知識・技術の検討

### (1)到達目標ごとに、下記の知識・技術が必要なのではないか?

到達目標1:情報を収集, 分析, ネット検索, 論文検索の技術

到達目標2:問題解決能力

到達目標3:システムの構築

到達目標4:情報処理技術以外

### (2)まずはスタンスを決めないといけない。

到達目標1では、経営工学領域の特徴として、組織体についてしっかり教育する必要がある。学生が、将来、ICTを道具として活用できる様に、その見本として、授業ではICTを活用してうまく見せる必要がある。

到達目標3においては、ハンドシミュレーションではなく、うまくICTやシミュレーションソフトウェアを使わせるように持って行く必要がある。

### (3)今回議論している情報教育は、ICTだけでなく、システムまで含んだイメージとすべきだ。

(4)科学的に調査し、分析するために、ICT を活用する。ICT が企業や組織体の活動を支援している。ICT・ソフトウェアを活用しながら、授業を進め、最後には、自ら、具体的に問題解決できることが望ましい。

(5)「情報教育」の定義をはっきりさせることが先決では？情報を活用した教育なのか？

(6)(事務局)「学士力の考察」の到達目標を、串刺しにしてまとめて欲しい。

#### 2.4 基本情報とは何か

(1)情報の所在はどこか、情報をどう入手できるのか、情報の信頼性・正当性はどう判断するのか？どこの委員会でも検討している。

(2)集めた情報を数値解析・分析する際、中身を知らないまま「ブラックボックス」として扱い、ソフトウェアの出力を鵜呑みにすることがないように、適正な判断ができるように教育する必要がある。

(3)ソフトウェア以前の問題として、データの作り込みの方法やデータの裏側のデータ構造について理解し、自分で作業しながら、出てきたデータを検討し、その良否に気づく能力が必要である。

(4)アナログ的な学習も必要。「知的土方」をさせて、十分に「免疫力」を付けてから、自己判断ができるようになればよい。

(5)解のない問題のシステム化、判断、考え方のグリッド化、情報をもろうための工夫、政策グリッド、情報を組み合わせた結果が適切かどうかの判断、修正ができて欲しい

(6)社会に散在した知恵をかき集めて、解析ができるレベルに達して欲しい。

(7)先生方ができるレベル、よりも、理想のレベルを記載すべきである。

#### 2.5 記述の際の主語は学生？大学？教員？

(1)到達目標・到達度:学生の資質として、身に付けさせて、できるようにならなければならないもの:・・・できる

(2)教育内容・方法は、教育する側:・・・させる

#### 2.6 情報システム・ICT の位置付け

(1)システムを情報システムだけに限定して良いのか？

(2)リテラシーの位置付けは？

(3)企業や組織体の業務活動に関して、情報システムをどう位置付けるか。

(4)ICTありき、では？「ICTを使って・・・」

(5)経営工学は経営学と視点が異なるのでは？

(6)(事務局)私情協としてアクレディテーション化を目指す。

#### 2.7 「経営工学の情報教育」の作成

これまでの議論に基づいて、資料8「経営工学の情報教育について(平成21年12月26日現在)」を作成した。

### 3. 今後のスケジュールについて

次回の委員会

日時:2月23日(土) 午後5時30分から午後7時30分まで

以上.